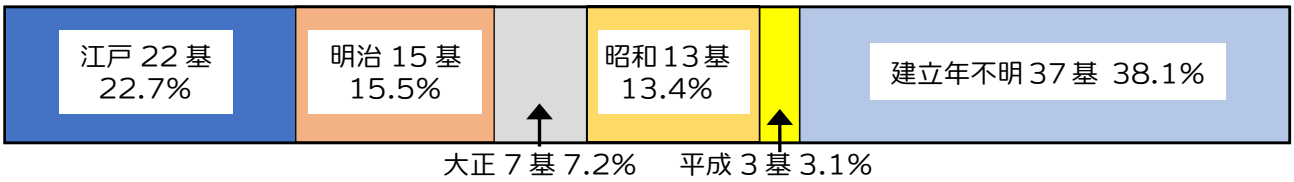
建立年代の分布



建立年代の構成比は上記のとおりとなる。県外の碑も含んだ全体の構成比と比べると、江戸時代の建立が若干多くなっている。このうち、最古の碑は波根町の碑で文政３年（1820）、井戸公没後 85 年になる。次いで温泉津町湯里中村が文政 11 年（1828）で、以下鳥井町鳥井天保 10 年（1839）、温泉津町湯里専念寺の天保 11 年（1840）、静間町和江の天保 12 年（1841）と続く。これらは天保４年（1833）から同７年まで続いた天保の飢饉の影響があるのだろうか。特徴的なのは幕末の安政元年（1854）からの５年間に 12 基が建立されていることで、その中には祖式町の４基も含まれる。

大正期以降は再建された碑が目立ち、大正では４基、昭和で７基が再建されている。昭和以降で新規に建立された碑のうち、最も新しいものは大森町井戸神社境内の碑で昭和 57 年（1982）の建立。平成期の３基はいずれも再建または修復されたもの。

石碑の高さの分布

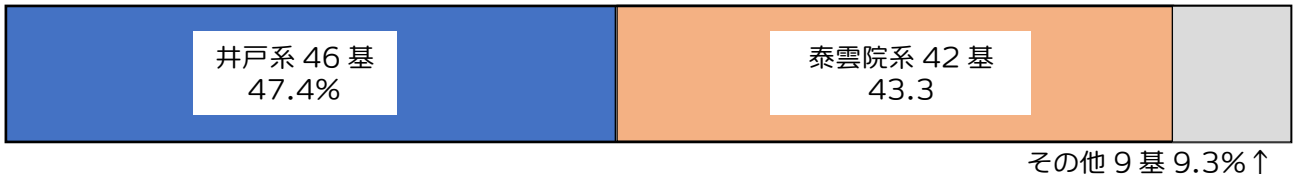
石碑の高さは、碑石だけの高さでは最も高いものが温泉津町福波湊西の碑で 254 ㌢、最も低いものは祖式町横谷で 66 ㌢、平均は 126 ㌢となる。

全体の高さでは最も高いものが温泉津町温泉津厳島神社で 422 ㌢、最も低いものは久利町市原で 90 ㌢（この碑には台石がない）、平均は 214 ㌢となる。

石碑の型による分布

頌徳碑には石を四角柱に加工した墓石型と、自然石をそのまま（または碑文面のみを加工したもの）使った自然石型がある。97 基のうち、井戸神社のような建物、久手町苅田神社の祠型などを除く 92 基を比較すると、墓石型が 47 基（51.09%）、自然石型が 45 基（48.9%）と墓石型がやや多くみられる。

碑銘の類型による分布



碑銘には姓名の一部を彫った「井戸系」、法名の泰雲院義岳良忠居士からとった「泰雲院系」、それ以外の「寿真碑」「欣澤碑」の３種類があり、その分布をみると、大田市内では井戸系がやや多く 46 基（47.42%）、泰雲院系が 42 基（43.30%）となっている。碑文の読めないものはその他に分類した。

「井戸系」が多いのは大田市の特徴で、他市の例を見ると、浜田市、江津市では「泰雲院系」が「井戸系」のほぼ倍の数あり、松江市では 35 基中 33 基、ほぼ 100%で「泰雲院系」であることと比較すると、大田市では没後の「泰雲院」という名よりも生前の「井戸平左衛門」という名前の方により親しみを持っていたといえるだろう。

「泰雲院系」の中には、「泰雲院」の後に「殿」、「居士」の前に「大」を加えたものも多い。